

<b>【科目名】</b> 金融経済学Ⅱ	<b>【単位数】</b> 2 単位	<b>【科目区分】</b> 専門科目 基幹科目
<b>【担当者】</b> 國方 明 Kunikata, Akira	<b>【オフィス・アワー】</b> <b>時間:</b> 第1回の授業で連絡します。 <b>場所:</b> 525号室	<b>【授業の方法】</b> 講義
<b>【科目の概要】</b> 本科目では、金融という経済活動を、主にマクロ経済学の知識を使って理解します。皆さんのほとんどはマクロ経済学を受講しているでしょうし、皆さんの中には経済変動論を受講した人もいるでしょう。これら科目で身につけたマクロ経済学の知識と理論のうち、金融にかかわる部分をより深く学びます。 第5回～第13回が、マクロ経済学を金融に応用した授業です。マクロ経済学と経済変動論に比べて、本科目では、マクロ経済学の歴史を振り返りながら、金融政策の有効性について議論します。また、本科目では金融政策の目標と手段といったやや技術的な面も学びます。 また、残り(第1回～第4回、第14回と第15回)の授業では、第5回～第13回の授業を理解するために必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用します。特に金融システムの重要な構成要素である民間銀行について学びます。		
<b>【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】</b> 1. 他の科目との関連付け まず、【科目の概要】で説明したように、本科目では、主にマクロ経済学や経済変動論で学んだ知識を用いて金融を理解します。したがって、マクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、マクロ経済学のうち金融政策と金融システムにかかわる部分です。 次に、本科目で教えた知識を、金融機関論(3年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。 2. 学んだことが何に結びつくか？ 皆さんは既にマクロ経済学と経済変動論で、金融政策の重要性を学んだと思います。この重要性を、歴史や技術面も含めて理解できると考えます。		
<b>【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】</b> 1. 最終目標 ・ 金融政策が一国経済や世界経済に与える影響を適切に理解するための知識と理論を身につける。 2. 中間目標 ・ 金融政策の目標と手段を学ぶ。 ・ 民間銀行が、金融政策とどのように関連しているかを学ぶ。 ・ 現在の日本で、金融特に金融政策と金融システムに関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。 以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があります。		
<b>【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】</b> 2022年度には、3年生科目全体よりもまずまず高い評価をいただきました。2023年度にも高い評価を得られるように努めます。		
<b>【教科書】</b> 本科目では教科書を使用しません。その代わりに、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。		
<b>【指定図書】</b> 該当無し。		
<b>【参考書】</b> 参考書1: 内田浩史『金融』有斐閣、2016年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書2: 小林照義『金融政策 第2版』中央経済社、2020年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書3: 佐藤綾野・中田勇人『国際金融論 15講』新世社、2021年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書4: 植田健一『金融システムの経済学』日本評論社、2022年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)		

**〔前提科目〕**

マクロ経済学、経済変動論

上記2科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、前提科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

**〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)**

2020年4月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 授業内小テスト1回。択一式です。

(イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。

一方、2019年4月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**1点目を参照してください。

**〔評価の基準及びスケール〕**

2020年4月以後に入学した学生については、**〔学修の課題、評価の方法〕**に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上、B:70%以上、80%未満、C:60%以上、70%未満、D:50%以上、60%未満、F:50%未満。

一方、2019年4月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**1点目を参照してください。

**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**

- 2019年4月以前に入学した学生は、本科目を履修するとともに、今年度秋学期開講の金融経済学Iを履修してください。これら2科目の学修成果を総合して、旧旧カリ科目「金融経済学」4単位分の評価を行います。
- 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

**〔実務経歴〕**

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたマクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。

授業スケジュール

(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと民間銀行(1)</p> <p>内容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、民間銀行の超過利潤の源を理解します。民間銀行特に地域銀行は、利鞘から超過利潤を得ます。利鞘は、長期の貸出利率から、短期の預金利率を引いた差です。</p> <p>参考書1 第8章と第13章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 利率の期間構造</p> <p>内容: 長期利率と短期利率との関係について、3つの仮説があります。これら仮説を紹介します。</p> <p>参考書1 第2章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 民間銀行(2)</p> <p>内容: 民間銀行の役割を学びます。また、取り付け騒ぎという現象を学びます。</p> <p>参考書1 第8章と第13章、参考書4 第8章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中央銀行(日本では日本銀行)</p> <p>内容: あえてミクロ経済学的な思考法を使って、中央銀行という個別経済主体を学びます。</p> <p>参考書1 第12章と第14章、参考書4 第8章</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 貨幣供給と、貨幣に対する需要</p> <p>内 容: 第5回～第9回では、金融政策を中心に、一国で完結するマクロ経済学の理論を学びます。第5回では、貨幣供給と貨幣需要それぞれの決まり方を学びます。</p> <p>参考書1 第12章、参考書2</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策の有効性についての論争</p> <p>内 容: マクロ経済学の歴史を振り返り、金融政策の有効性についての論争を紹介します。また、裁量とルール、タイムラグ、時間不整合性やクレディビリティなど、論争の中で現れた様々な概念を学びます。</p> <p>参考書1 第12章、参考書2</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融政策の最終目標と手段</p> <p>内 容: 金融政策の最終目標を学びます。また、中央銀行が最終目標を達成するために実施する手段を学びます。</p> <p>参考書1 第12章、参考書2</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): ルール割り当て理論</p> <p>内 容: 第6回で、金融政策にかかわるルールを学びました。今回、まず代表的なルールを2種類学びます。次に、2種類のルールの割り当てについての理論を学びます。</p> <p>参考書1 第12章、参考書2</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策</p> <p>内 容: 1990年代末以降、わが国では非伝統的金融政策が数度実施されています。非伝統的金融政策の特徴や、期待される効果を学びます。また、非伝統的金融政策の副作用も学びます。</p> <p>参考書1 第12章、参考書2</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 国際収支統計</p> <p>内 容: 対外取引を集計した統計を紹介します。また、第10回授業内で、小テストを実施する予定です。</p> <p>参考書3 第2講</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 為替レートの決定理論</p> <p>内 容: 為替レートの決定理論を2つ学びます。</p> <p>参考書3 第7講と第8講</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 開放マクロ経済の理論モデル</p> <p>内 容: IS/LMモデルを開放経済に拡張して、マンデル=フレミングモデルを理解します。また、マンデル=フレミングモデルを用いて、開放経済における財政政策と金融政策それぞれの効果を学びます。</p> <p>参考書3 第12講と第13講</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(1)</p> <p>内 容: 第3回で、取り付け騒ぎを学びました。第13回～第15回では、この騒ぎを予防したり、騒ぎが実現したときに騒ぎを軽減したりするための政策対応を学びます。この政策をプルーデンス政策といいます。</p> <p>また、プルーデンス政策は、マクロプルーデンス政策とマイクロプルーデンス政策の2つに分かれます。第13回ではマクロプルーデンス政策を学びます。</p> <p>参考書1 第14章、参考書4 第9章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(2)</p> <p>内 容: マイクロプルーデンス政策の手段のうち自己資本比率規制を学びます。</p> <p>参考書1 第14章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(3)</p> <p>内 容: マイクロプルーデンス政策の手段のうち自己資本比率規制以外を学びます。</p> <p>参考書1 第14章</p>
試 験	<p>期末試験択一式と記述式の併用を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。</p>